

令和５年度第１回京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和５年４月５日（水） 午後６時～午後７時３５分
- 2 場 所 京都市総合教育センター 第１研修室
- 3 出席委員 徳岡会長、
天野委員、岩本委員、石倉委員、奥田委員、表委員、衣川委員、木村委員、清水委員、首藤委員、辻野委員、升光委員、松田委員、美濃委員、宮崎委員、吉川委員
※下線はオンライン参加者

4 次 第

（議題）

- ・ 令和５年度行動指針（案）について
- ・ 令和４年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰（案）について
- ・ 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和５年度取組（案）について

（その他）

- ・ 「京都市はぐくみ憲章」子育て応援交流会について

5 会議録

（確認事項）

- ・ 小林雅代委員の後任として伊住公一朗委員が新しく就任。（京都青年会議所）
- ・ 安田佐保子委員の後任として岩本利広委員が新しく就任（京都障害児者親の会協議会）
- ・ 出席の委員が全委員の過半数を超えるため、会議が成立している。

【議題】

（１）令和５年度行動指針（案）について

事務局

資料１－１、１－２、１－３、１－４、２－１に基づき説明。

委員

具体的で分かりやすいのは案１で、案２と案３は大まかな印象を受けた。

委員

この２年はコロナ禍でみんなマスクをしていて、笑顔が見えなかった。案１は文章が長いのが気になるが、分かりやすさはあると思う。

委員

憲章の対象となる子どもがどの程度このリーフレットを見るのか。見て欲しいターゲットについての考えを聞きたい。

事務局

子どもにも見て欲しいが、基本的には子どもの周りにいる大人に見て欲しい。また、その周りの人たちにも広がってほしいとの思いがあるため、分かりやすく書きたい。

委員

案3は子どもたちが主役である事を強調しているところで、「主役」という言葉がいいと思った。

会長

案1を押される方が多いが、案3の子どもが主役というのも捨てがたいとの意見もあった。案1と案3が融和した形で事務局に修正をお願いしたい。

(出席者から異議なし)

次に緊急の方策及び基本的な方策に関する行動について、意見を伺いたい。

子ども家庭庁ができ、京都市として、子どもを産みたい・育てたいと思えるようなもののイメージしてみてはどうか。

委員

不安な社会の状況を切実にタイムリーに大人が知ることが大切。また、今の子どもたちはこんなに素晴らしいんだと、右肩上がりになっているグラフを見つけ出していきたい。今凄く厳しい状況だけでも、子どもってやっぱりすごいよねというのが表現できれば良いのでは。

会長

大人が社会に対して、漠然とした不安を持っていると、子どもを産んで育てようという思いに不安が生じる。子どもや親が将来に対して希望が持てるようなメッセージが必要なのだと感じた。また、虐待のグラフに関して、明治時代と今の時代では虐待の概念が変わってきているので、数字は増えている傾向がある。相談数も増えているが、単に虐待が増えただけではなく社会の意識が高まっていることで、結果として、良くなっていくという風にも捉えられるのではないかな。

委員

緊急の方策については、社会問題として大変厳しい内容についてどう向き合っていくかが記載されているが、虐待以外の項目では子ども自身が自分のことを大切にしていけないことが原因ではないか。日本の子どもは諸外国に比べて自己肯定感が低いといわれるが、大人たち一人一人が子どもに対して、どれだけ大事な存在で、人生は素晴らしいかということを、積極的に発信する土壌が必要。

委員

今の子どもの良いところや、守ってあげないといけないところを知ってもらったうえで、大人としてどうすべきか、読む人にも考えてもらえるような発信の仕方はどうか。緊急の方策に関する行動の言葉が、人権や命を守りますと、すごく重く感じる。もう少し、取り組みやすい印象をもってもらえるような表現の仕方にしてはどうか。

委員

大人と子どもが一緒に基本的な方策に関する行動に取り組むことで、緊急の方策に関する行動を実現できると考えている。例えば、子どもの意見や存在を尊重することに関しても、なかなか全ての意見を実現することはできないが、話し合いを通して一緒に実現可能な部分を見つけることはできる。ルールやマナーはみんなで生活するには必要で、基本的には挨拶を通してお互いにコミュニケーションをとることが大人全体で子どもを守り育てることだと思う。緊急の方策に記載されていることはかりに子どもたちの目が行かないよう、社会には楽しいことがある事を伝える必要がある。

会長

緊急の方策と基本的な方策についてはリンクしているとのことご意見をいただいております、セットで考えていきたい。

委員

何をすべきなのかを決めつけるのではなく、現状を知ったうえで見てくれた人に思いを巡らしてもらいきっかけを作ることが目的であると考えている。現在の緊急の方策に関する行動については、当たり前すぎて考えてもらうことに繋がらないのでは。状況だけを示し、どんなことが必要なのか、また、出来るのかを考えてもらうことが必要。

会長

行動指針リーフレットについて、「～守ります」等の記載があるが、大人側の決意表明的なことなのか。

事務局

行動指針は、条例の文章を基に誰もが取り組める具体的行動を毎年策定しているもので、その時々
の社会情勢に合わせた形で、文言を修正している。

委員

リーフレットの後ろのページにある、6つの行動理念は、どのような位置づけか。

会長

行動理念は、はぐくみ憲章の条例にも記載があり、骨格のような位置づけである。

委員

前回、「私の行動指針」について記載してもらうスペースを設けたことは非常に良かった。リーフレットは、届けたい内容が多くなるとどうしても字が多くなり、読んでもらえなくなる。もう少し、文字を少なくすっきりさせた方が良いのでは。

委員

緊急の方策の言葉を、「薬物」、「児童虐待」、「ポルノ」など要素のみを簡潔に書いて、読み手にどんなことから取り組むか投げかける形でもよいのでは。

委員

リーフレットは文字が多いと全部読んでもらえない。手に取った時に楽しそうだなと感じてもらい、見出しだけで簡潔に表現するのがいいのでは。手に取った人に、何から取り組みますかと問うのもいいと思う。子どものすぐ身近に危険が迫っている現状を知ってもらうことこそが必要だと思う。

委員

最後の「私の行動指針」を書くスペースに関して、少し文言を柔らかくし、「何から始めますか？」のように、取り組んでもらいやすい記載にしてみてもいいか。

会長

委員の意見を踏まえ、事務局で修正案を作成し、会長副会長に一任いただくことでよい。

(出席者から異議なし)

(2) 令和5年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰(案)について

事務局

資料3-1に基づき説明。

(出席者から異議なし)

(3) 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和5年度取組(案)について

事務局

資料4、5に基づき説明。

(出席者から異議なし)

【その他】

(1) 「京都はぐくみ憲章」子育て応援交流会について

事務局

資料6に基づき説明。

委員

限られた時間ではあったが、色々な意見を交わすことができ非常に良かった。年1回なので色々な団体と、もう少し広い場所で、ゆっくり話ができれば、なおよかった。

委員

グループトークの際に、声が聞き取りにくかったと意見があったが、聞こえないからこそ頭を寄せ合って話すことができたことがよかった。